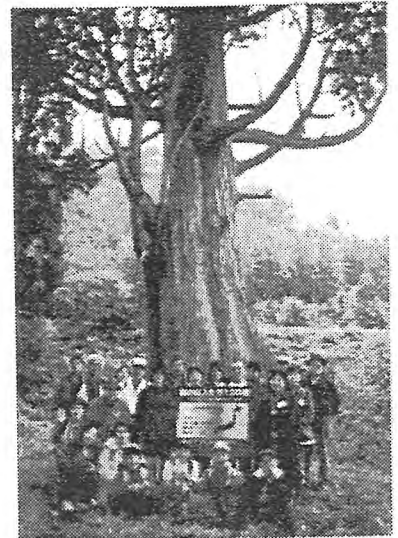


真室川町森の巨人たち保全協議会の活動について

真室川町企画課 ○ 山田 和寿

真室川町は秋田県との県境、山形県の最北部に位置しており、民謡「真室川音頭」で全国的に有名です。人口は、10,420人、世帯数は3,001世帯、産業は、農業と製造業が主なものです。町の総面積は、374.29km²と広大ですが、そのうちの88%が森林で覆われており、古くから森林・林業と関わりを持った生活を送ってきました。町の歴史民俗資料館は、「山とくらし」をテーマにしており、山仕事の道具を多数展示していますが中でも「窓ノコ」と呼ばれる大型の鋸の収蔵数は約1,000点あり、この窓ノコは真室川町から全国に広がったといわれています。また、昭和初期に木材運搬に使用していた「森林トロッコ列車」を町の事業として整備するなど森林との関わりを物語る貴重な資源が多く残されています。

平成12年4月、森林との関わりが深い真室川町から「女甕山の大カツラ」「滝の沢の一本杉」が森の巨人たち百選に選定されました。町では、地元のボランティア団体、区長、森林管理署最上支署と協議を重ね巨木を保全するための「真室川町森の巨人たち保全協議会」を平成13年9月に設立しました。協議会設立の目的は、巨木の生育環境の保全、自然と共生する意識の普及啓蒙などで、「女甕山の大カツラ」の地元の人々で組織しているボランティア団体の「甕山探求会」と地元区長を母体としています。行政はなるべく表に出ず、後方支援に徹することにしています。以下では、協議会設立後の各年度ごとの事業を紹介します。



1 平成13年度

(1) 巨木看板設置

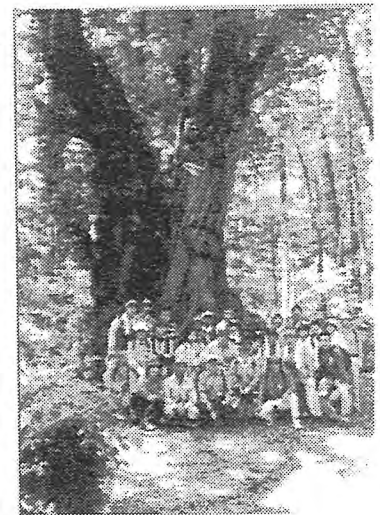
巨樹・巨木保護中央協議会から配布された巨木看板を設置した。

(2) 巨木診断

樹木医である大津正英氏から巨木の診断をしていただき、「女甕山の大カツラ」「滝の沢の一本杉」ともに樹齢千年を超えている診断を受けた。また、樹勢は衰えていないが、踏みつけを防止するために、根回りへのチップ敷きを進められた。

(3) 根回りへのチップ敷き

巨木診断でのアドバイスを受け、根回りへのチップ敷きを行った。



2 平成14年度

(1) 巨木の森コンサートへの協力 川井郁子

山形県と真室川町が共催しヴァイオリスト「千住真理子」

さんを迎え開催した「巨木の森コンサート」について会場の選定、設営、会場周辺の整備等の協力を行った。

(2) エコトイレの設置

堆肥の発酵を促進させる「ワーコム」という材料を用い、糞尿を水と二酸化炭素に完全分解し、汲み取りの必要もない環境保全型のトイレを実験的に整備した。

(3) 巨木ポスターの作成

民間印刷業者と協力し、巨木を撮影した後に、B全のポスターを作製した。パネルに入れて5,000円の値段(2種類で10,000円)で販売し、好評を得ることができた。

3 平成15年度

(1) 滝の沢の一本杉が県指定天然記念物に指定

滝の沢の一本杉は、それまでは町指定天然記念物だったが、平成15年5月9日に県指定天然記念物となった。

(2) 最上の巨木林保護適正利用モデル事業の実施

甑山と加無山は「加無山県立自然公園」の指定を受けており、原始的な自然環境が保全されている。巨木周辺の環境整備と緊急避難小屋の設置を行うため、山形県、真室川町の補助を受け、最上の巨木林保護適正利用モデル事業を実施した。緊急避難小屋は、6mを超える積雪に耐えられる三角形の構造とし、高さ8m、面積30㎡で「悠森舎」と名づけた。

(3) 巨木の森コンサートへの協力

山形県と真室川町が共催しヴァイオリスト「川井郁子」さんを迎え開催した「巨木の森コンサート」について会場の選定、設営、会場周辺の整備等の協力を行った。

(4) 巨木ストラップの製作・販売

雪害によって折れてしまった巨木の枝を利用し、真室川町うるしセンターとの協力により、携帯電話のストラップを製作・販売を行った。

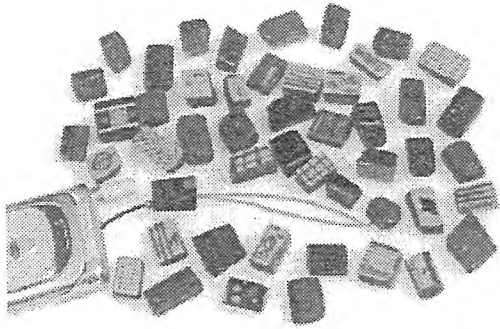
これまでの活動の中で特に詳しく紹介したい事業として「巨木の森コンサート」「巨木ストラップの製作・販売」が挙げられます。

巨木の森コンサートは、最上地域で多数の巨木が発見され、巨木を観光資源として活用するために山形県・戸沢村・鮭川村・真室川町が実行委員会を組織し、平成14年度から開催されています。各町村に存在する巨木の近くでクラシック音楽を楽しむというコンセプトのもと、真室川町には平成14年度に千住真理子さん、平成15年度に川井郁子さんを招きヴァイオリンの音色が巨木の森に響き渡りました。約300名の観衆は、美しい自然、美しい人、美しい音色に酔いしれ、まさに“感動”の言葉にふさわしいコンサートでした。舞台や椅子の搬入などは重労働でしたが、あの感動をまた味わうために平成16年度も開催する予定となっています。



巨木ストラップの製作は、偶然と真室川町の地域性が生んだヒット商品と言えるでしょ

う。平成14年10月に例年よりも早い時期の降雪があり、落葉する前の枝に雪が積もったことから、町内での枝折れ被害が多発しました。春になって「女甕山の大カツラ」「滝の沢の一本杉」とも直径20cmほどの枝が落下していることが確認され、活用方法について検討を行いました。とりあえず所有者である山形森林管理署最上支署の了解を得て枝を回収し乾燥させることにしました。材料の有限性やいつも身につけておくことが可能な小



さい物ということで、携帯電話のストラップを作ることになりました。チェーンソーで10cm程度に切断し、ナタで1センチほどに割ります。糸ノコで長さ2cm程度に切り分け、紐を通す穴を明けます。研磨機を使い絵付けをする面と角の部分の面取りをし、木地の出来上がりです。ここから漆塗りが始まりますが、塗りと研ぎを数回繰り返す細かな作業が続き、一つの面に絵付けします。紐

を通して完成となりますが、大きさ、形、色合い、絵など、すべて違うオリジナルストラップに私たちは、「千年杉」「千年桂」と名づけました。値段は、「千円」巨木が重ねてきた年輪の千年にあやかろうとしたもので、ストラップの売上の一部は協議会の収入となり、巨木の保全活動に使うこととしています。巨木の枝が折れた事故と真室川特産の漆塗りを結びつけ、ネーミングと価格にも意味を込めたオリジナルストラップは、マスコミに取り上げられるなど大きな反響を呼び15年8月の販売開始から16年3月までに1,484個を販売しました。

今後の協議会活動については、巨木周辺の良好な自然環境の保全、入林者のマナー向上、地域資源を活用した交流の拡大などを柱にした活動をしていきたいと考えています。入林者が増加すれば自然環境が破壊されるかもしれないという、矛盾する側面もありますが、地元の人々と密着した関わりを今後も保ち、「女甕山の大カツラ」「滝の沢の一本杉」の保全と活用を続けていきたいと思えます。